

大和郡山城下町として大切にしたい建物50選

～「中村家住宅」聞き取り調査の記録～



【建物概要】

建物名称：中村家住宅

所在地：本町

当初の用途：糸屋

現在の用途：住宅

建造時期：明治中期

構造規模：木造

つし2階建

(調査日：平成26年8月24日)

【建物現況と周辺状況】

郡山城下町の北部に位置する本町の通りは道路幅員が周辺より広く、一昔前は昭和天皇をはじめ皇族の方々が奈良ホテルから柳澤神社へ向かう際に通られたとか。その様な歴史を感じることが出来る場所に建つ、かつての商家です。

【歴史的特徴と建築的特徴】

本住宅は、木格子、虫籠窓、つし2階といった、町家の基本的な特徴を持ちつつも、木製の螺旋階段やむくり屋根に合わせたアールの竿縁天井や繊細な細工を施された金物等、洒落た意匠が特徴的で、床の間や建具の意匠も非常に凝った造りになっています。

又、敷地内には蔵が三つ(米蔵、道具蔵、内蔵)も有ります。

【建物の歴史・暮らしの様子・所有者の思い】

この建物は、東側に建つ、中村酒造の分家で、元々は大阪で質屋を営まれていましたが、日紡が郡山に来る以前に郡山に移られ、本建物で糸屋(手巻)を営まれながら、切手類の販売もされていたそうです。

昭和43年頃には仕事の関係で一家で埼玉に住まれていたそうですが、その間も時々親戚の方が窓を開けたりして建物を維持してこられました。

維持管理は大変な手間がかかり、夏は暑く、冬は寒いと仰りながらも今後も建物を維持し続け、米蔵をリフォームしてお住まいの息子さん一家にも建物を維持して貰えたらと考えておられます。

